埼玉県入間郡三芳町

町内遺跡発掘調査報告書Ⅳ

1998. 3

埼玉県入間郡三芳町教育委員会

はじめに

三芳町は、武蔵野の面影を偲ばせる雑木林と田園風景が、町内の随所に広がる緑豊かな自然に恵まれた町であると共に、県指定旧跡「三富開拓地割遺跡」、県指定有形民俗文化財「竹間沢車人形」などをはじめとする多くの文化財を伝え残す町でもあります。

一昔前までは、畑作中心の純農村地帯として発展をしてきましたが、都心から僅か30km圏内に位置することから、近年、住宅開発や工場・倉庫等の進出により、その姿は急速に発展し、変貌を遂げております。

このような状況の中で、先人が培ってきた様々な文化は、将来への発展の礎となる貴重な遺産として保護し、伝え残していくべきものとの観点に立ち、三芳町では文化財の保護を教育行政重点施策として掲げ、実施しております。とりわけ町内に残された23ヶ所にのぼる遺跡すなわち埋蔵文化財は、開発により直接的に失われていく文化財でありますが、幸いにして当町では国・県の補助を得て記録保存のための発掘調査を実施することができました。

ここに刊行する三芳町町内遺跡発掘調査報告書Ⅳには、国庫・県費補助事業として平成5年度から平成9年度の5ヶ年にわたり実施された町内遺跡発掘調査事業の成果が記録されております。

開発に先立つ発掘調査が実施され、本書が刊行できますことは、ひとえに関係各位のご理解とご協力の賜と厚く御礼申しあげます。

本書が、埋蔵文化財の記録としての保存となると共に、郷土の歴史・文化遺産を伝え残し、より一層の発展をしていくための一助になることを願ってやみません。

三芳町教育委員会
教育長　富田信男

例　　言

1. 本書は、埼玉県入間郡三芳町に所在する三芳町町内遺跡の発掘調査成果の概略報告書である。三芳町教育委員会が主体となり、国庫補助・県費補助事業として平成5年度から平成9年度までの5ヶ年間に実施した調査の概略をまとめたものである。
2. 本書に収録した発掘（試掘確認）調査は、国庫補助事業「町内遺跡発掘調査」事業として平成5年度に総額1,529,954円（国庫750,000円・県費375,000・町費404,954円）、平成6年度に総額1,346,691円（国庫650,000円・県費325,000・町費371,691円）、平成7年度に総額2,401,050円（国庫1,200,000円・県費600,000・町費601,050円）、平成8年度に総額1,626,023円（国庫800,000円・県費400,000・町費426,023円）、平成9年度に総額2,050,388円（国庫1,000,000円・県費500,000・町費550,388円）をもって実施したものである。

   なお、本書の作成は、平成9年度国庫補助事業「町内遺跡発掘調査」事業の一環として実施したものである。
3. 本書の編集は柳井章宏が行い、原稿執筆は、出土遺物について小林由孝、その他を柳井が担当し、写真撮影、挿図・図版の作成は両名で行った。
4. 本書に掲載した図版等の読み方は、それぞれの図で示した。
5. 本書に掲載した地図は、三芳町発行の1／2,500・1／20,000三芳町全図である。
6. 発掘調査及び出土資料の整理・報告にあたり、下記の諸氏・関係機関にご教示・ご指導を賜った。記して感謝の意を表したい。（順不同、敬称略）

   会田　明、荒井幹夫、飯田充晴、石坂俊郎、岡田賢治、加藤秀之、隈本健介、小出輝雄、笹森健一、高崎直成、坪田幹男、早坂廣人、鍋島直久、柳沢健司、和田晋治、
   埼玉県文化財保護課、大井町教育委員会、上福岡市教育委員会、富士見市教育委員会、富士見市立考古館

凡　　例

1. 挿図の縮尺は、住居跡等の遺構1／80、竈1／40、出土遺物1／3を基本とした。
2. 挿図中で、推定線には点線を用いた。
3. 挿図中、住居跡の床面の破線は硬化範囲を表す。
4. 胎土粒子に関する各項目の基準は以下のように定めた。

   礫：2.0㎜以上
   粗砂：0.2㎜以上2.0㎜未満
   細砂：0.2㎜未満
5. 坏の実測図において口唇部の実践は明確な稜線を表し、体部の実線および破線は、ロクロ調整の際の緩やかな稜が存在することを表す。
6. 土器の実測図中、中軸線が一点鎖線の場合は180度回転させて復元実測したことを示している。

目　　次

はじめに
例言・凡例
目　次・挿図目次
写真図版目次
Ⅰ．年度ごとの調査と組織・参加者…… 1
1. 平成５年度の調査 …… 1
2. 平成８年度の調査 …… 1
3. 平成９年度の調査 …… 1
4. 試掘確認調査 …… 2
5. 調査組織と参加者 …… 3
Ⅱ．各遺跡の調査…… 4
1. 概　括 …… 4
2. 本村北遺跡Ｃ地点の調査 …… 6
1)調査の経緯…… 6
2)遺跡の概要…… 6
3)遺　構…… 7
3. 藤久保東遺跡Ｄ地点の調査 …… 9
1)調査の経緯…… 9
2)遺跡の概要…… 9
3)遺　構…… 9
4. 本村北遺跡Ｄ地点の調査 ……13
1)調査の経緯……13
2)遺跡の概要……13
3)遺　構……13
4)遺　物……17

挿図目次

第1図　調査を実施した遺跡 …… 5
第2図　本村北遺跡Ｃ地点調査位置図 …… 6
第3図　本村北遺跡Ｃ地点全測図 …… 7
第4図　１号集石実測図 …… 8
第5図　藤久保東遺跡Ｄ地点調査位置図 … 9
第6図　藤久保東遺跡Ｄ地点全測図 ……10
第7図　藤久保東遺跡Ｄ地点土層図 ……10
第8図　礫群１実測図 ……11
第9図　礫群２実測図 ……11
第10図　礫群３実測図……12
第11図　礫群４実測図……12
第12図　本村北遺跡Ｄ地点調査位置図……13
第13図　本村北遺跡Ｄ地点全測図……14
第14図　Ｄ１号住居跡遺物出土状況図……15
第15図　Ｄ１号住居跡実測図……15
第16図　Ｄ１号住居跡竈遺物出土状況図…16
第17図　Ｄ１号住居跡竈実測図……16
第18図　Ｄ２号住居跡実測図……17
第19図　Ｄ２号住居跡竈実測図……18
第20図　住居跡出土の遺物……19

写真図版目次

写真図版１（本村北遺跡Ｃ地点）
調査地全景
調査風景
１号集石（北→）
１号集石（東→）
１号集石接写
調査終了
写真図版２（藤久保東遺跡Ｄ地点）
調査地全景
調査風景
礫群１
礫群２・３・４（東→）
礫群２・３・４（西→）
調査終了
写真図版３（本村北遺跡Ｄ地点）
Ｄ１号住居跡遺物出土状況
Ｄ２号住居跡遺物出土状況
Ｄ１号住居跡遺物接写
Ｄ２号住居跡遺物接写
Ｄ１号住居跡完掘
Ｄ２号住居跡完掘
写真図版４（本村北遺跡Ｄ地点）
Ｄ１号住居跡竈遺物出土状況
Ｄ２号住居跡竈遺物出土状況
Ｄ１号住居跡竈完掘
Ｄ２号住居跡竈完掘
調査風景
調査終了
写真図版５（本村北遺跡Ｄ地点）
住居跡出土の遺物

Ⅰ．年度ごとの調査と組織・参加者

平成５年度から平成９年度までの５ヶ年間に、町内遺跡発掘調査事業において調査を実施した遺跡は13遺跡・27地点である。この内、平成５年度は発掘調査２ヶ所と試掘確認調査７ヶ所、平成６年度は試掘確認調査５ヶ所、平成７年度は試掘確認調査６ヶ所、平成８年度は発掘調査２ヶ所と試掘確認調査２ヶ所、平成９年度は発掘調査１ヶ所と試掘確認調査２ヶ所である。年度ごとの調査を整理すると、以下のとおりとなる。

１．平成５年度の発掘調査

1)浅間後遺跡Ｃ地点

所在地：三芳町大字藤久保88-17,-18
調査期間：平成5年5月26日～平成5年6月8日
開発者：
調査原因：個人住宅建設
調査面積：128.99㎡

2)北原遺跡

所在地：三芳町大字竹間沢547-4
調査期間：平成5年6月15日
開発者：
調査原因：個人住宅建設
調査面積：330.91㎡

２．平成８年度の発掘調査

1)本村北遺跡Ｃ地点

所在地：三芳町大字竹間沢700-6
調査期間：平成8年10月7日～平成8年11月5日
開発者：
調査原因：個人住宅建設
調査面積：495㎡

2)藤久保東遺跡Ｄ地点

所在地：三芳町大字藤久保800
調査期間：平成９年2月4日～平成9年2月28日
開発者：
調査原因：個人住宅建設
調査面積：861.32㎡

３．平成9年度の発掘調査

1)本村北遺跡Ｄ地点

所在地：三芳町大字竹間沢769-1,-4,770-4
調査期間：平成9年5月13日～平成9年6月30日
開発者：
調査原因：個人住宅建設
調査面積：400㎡

4．試掘確認調査

平成5年度から平成9年度に実施した試掘確認調査は、以下の表のとおりである。

遺跡名称	調査原因	調査地地番	調査期間	面　積	確　認　内　容
藤久保東遺跡	宅地分譲	藤久保804他	5.5.11～6.18	4,600㎡	旧石器礫群 縄文早期炉穴等 受託発掘調査実施
浅間後遺跡	個人住宅	藤久保88-1,5	5.6.8	180㎡	遺物・遺構なし
生出窪南遺跡	個人住宅	竹間沢160-5	5.7.22	168㎡	遺物・遺構なし
三芳唐沢遺跡	駐車場造成	藤久保447-3	5.8.26～9.2	1,419㎡	遺物・遺構なし
浅間後遺跡	住宅分譲	藤久保87-3他	5.9.21～9.24	458㎡	遺物・遺構なし
北原遺跡	個人住宅	竹間沢537-7	5.11.9～11.10	165㎡	遺物・遺構なし
藤久保東遺跡	マンション	藤久保812-1他	5.11.26～12.7	2,790㎡	遺物・遺構なし
生出窪遺跡	個人住宅	竹間沢232-6	6.7.11～7.13	330㎡	遺物・遺構なし
北原遺跡	個人住宅	竹間沢544-3	3.10.18	495㎡	遺物・遺構なし
本村南遺跡	天地返し	竹間沢683-1	7.1.17～2.17	400㎡	弥生土器小片数点 遺構なし
生出窪遺跡	個人住宅	竹間沢204-5	7.2.20～2.24	490㎡	縄文土器小片数点 遺構なし
南止遺跡	墓地造成	上富716-2他	7.2.27～3.6	3,633㎡	旧石器礫群 遺構保存
南止遺跡	墓地造成	上富696-1,4	7.4.11～4.28	7,970㎡	遺物・遺構なし
中東遺跡	工場建設	上富195-1他	7.7.18～7.25	850㎡	旧石器礫群他
北原遺跡	倉庫建設	竹間沢544-1	7.10.12～10.13	327㎡	遺物・遺構なし
北側遺跡	特養ホーム	竹間沢731-3他	7.10.31～11.2	3,928㎡	遺物・遺構なし
藤久保東第三	店舗建設	藤久保336-6他	7.12.20～12.27	1,600㎡	遺物・遺構なし
俣埜遺跡	マンション	藤久保351-1他	8.1.11～2.28	14,000㎡	旧石器礫群 縄文炉穴・集石
本村南遺跡	土地売買	竹間沢860-1	9.6.19～6.24	603㎡	遺物・遺構なし
南止遺跡	鉄塔建設	上富691-4他	9.7.8.～7.25	121㎡	旧石器剥片一点 受託発掘調査実施

表1　試掘確認調査一覧

5．調査組織と参加者

調査組織

調査主体者　三芳町教育委員会
　　教育長　富田信男

調査事務局　生涯学習課
　　生涯学習課長　　新井義幸
　　同　課長補佐　　金子　明（平成9年3月まで）
　　〃　　石畑一男（平成9年4月より）

調査担当　　文化財保護係長　松本富雄
　　〃　主任　柳井章宏

平成５年度発掘調査・整理作業参加者（調査協力員）
池上英雄、池上ミヤ子、岩佐明美、河野俊郎、佐々木貴子、鮫貝有子、曽我雅代、新田登和子、橋本弓子、塙　和男、黛佳代子、三本義雄、宮田　守

平成６年度発掘調査・整理作業参加者（調査協力員）
相澤規子、荒島久美子、池上英雄、池上ミヤ子、上岡福藏、河野俊郎、川野美千代、斎藤真由美、鮫貝有子、菅原　正、新田登和子、野上吉樹、橋本弓子、塙　和男、廣田ふじみ、黛佳代子、三本義雄、宮島恵美子、宮田　守

平成７年度発掘調査・整理作業参加者（調査協力員）
相澤規子、池上英雄、上岡福藏、河野俊郎、川野美千代、斎藤真由美、菅原　正、野上吉樹、橋本弓子、塙　和男、廣田ふじみ、黛佳代子、三本義雄、宮田　守

平成８年度発掘調査・整理作業参加者
調査員：小林由孝
調査協力員：相葉孝之、加藤みゆき、上岡福藏、川出裕子、小竹春吉、斎藤信義、坂本榮子、佐々木しのぶ、菅原　正、田中一吉、内藤明美、中村粂子、西村恵子、野上吉樹、塙　和男、廣田ふじみ、藤井喜恵子、古市政子、黛佳代子、見澤美樹、三本義雄、宮田　守、矢島奈津子、安田あけみ、山崎正子、山之内和人、山本ふみ子

平成９年度発掘調査・整理作業参加者
調査員：小林由孝
調査協力員：相葉孝之、加藤みゆき、上岡福藏、川出裕子、坂本榮子、菅原　正、太刀川美樹、田中一吉、内藤明美、西村恵子、塙　和男、廣田ふじみ、藤井喜恵子、古市政子、黛佳代子、宮田　守、安田あけみ、山崎正子、山之内和人、山本ふみ子

Ⅱ．各遺跡の調査

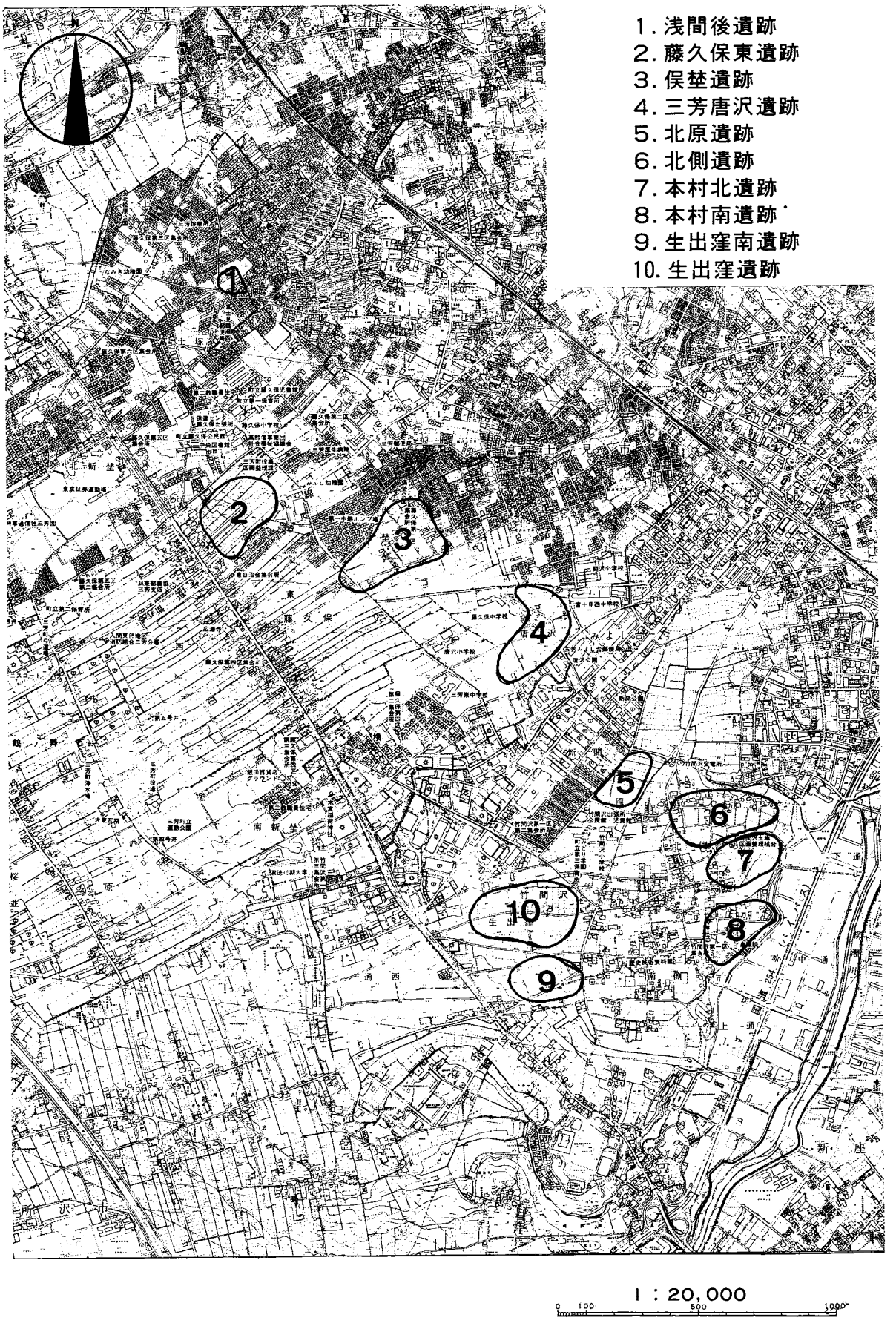
1．概　括

三芳町町内遺跡発掘調査事業は、平成２年度より国庫補助事業として実施してきた事業である。平成４年度までに実施した調査については、すでに調査報告書が刊行されているので、参照いただければ幸いである。今回の報告は、平成５年度から平成９年度までの５年間の調査をまとめたものである。この５年間に当該事業で発掘調査が行われた遺跡は、４遺跡５地点である。各遺跡の調査の成果は本章で詳しく述べることとするが、その前に各調査の概要を記しておくことにする。

柳瀬川右岸台地上の本村北遺跡Ｃ地点の調査では、縄文時代中期の集石遺構１基が検出された。旧石器時代の遺跡群として知られる藤久保遺跡群の江川最上流域一帯にひろがる藤久保東遺跡Ｄ地点の調査では、旧石器時代Ⅳ層下部の礫群４ヶ所が検出され、遺跡の範囲がより明らかとなった。本村北遺跡Ｄ地点の調査では、平安時代の竪穴住居２軒が検出され、遺跡の広がりがより明確になった。浅間後遺跡Ｃ地点の調査では、調査区内において遺構・遺物共に検出されず、この地点には遺跡が存在しないことが明らかとなった。また、北原遺跡の発掘調査においては、過去に土取りが行われていたことが判明し、遺物・遺構はすでに存在していなかった。

遺　跡　名	調　査　年　月　日	主な調査内容
浅間後遺跡Ｃ地点	平成5年5月26日～6月8日	遺物・遺構共に検出されず
北原遺跡	平成5年6月15日	調査以前に、すでに土取りが行われていたことが判明
本村北遺跡Ｃ地点	平成8年10月7日～11月5日	縄文時代中期と推定される集石遺構1基を検出
藤久保東遺跡Ｄ地点	平成9年2月４日～2月28日	旧石器時代礫群4ヶ所(Ⅳ層下部)を検出
本村北遺跡Ｄ地点	平成9年5月13日～6月30日	平安時代竪穴住居跡2軒を検出

表２　発掘調査一覧



第１図　調査を実施した遺跡

2．本村北遺跡Ｃ地点の調査

1)調査の経緯

本村北遺跡Ｃ地点は、埼玉県入間郡三芳町大字竹間沢字北側700番地6に位置する。調査は、個人（分家）住宅建設に先立つ埋蔵文化財記録保存調査として、495㎡を実施した。　本遺跡は、過去3回にわたる発掘調査が行われている。昭和55年度に遺跡の南端部付近で発掘調査が実施されており、縄文時代の遺物包含層・土壙・古墳時代の大型住居跡・奈良時代の住居跡・平安時代の住居跡等が検出され、平成３年度から４年度にかけて遺跡の東部付近で発掘調査が行われ、縄文時代前期の住居跡1軒および奈良時代の住居跡2軒が検出されている。また詳細は後述するが、平成9年度に遺跡の北限付近を発掘調査したところ、平安時代の住居跡2軒が検出されている。

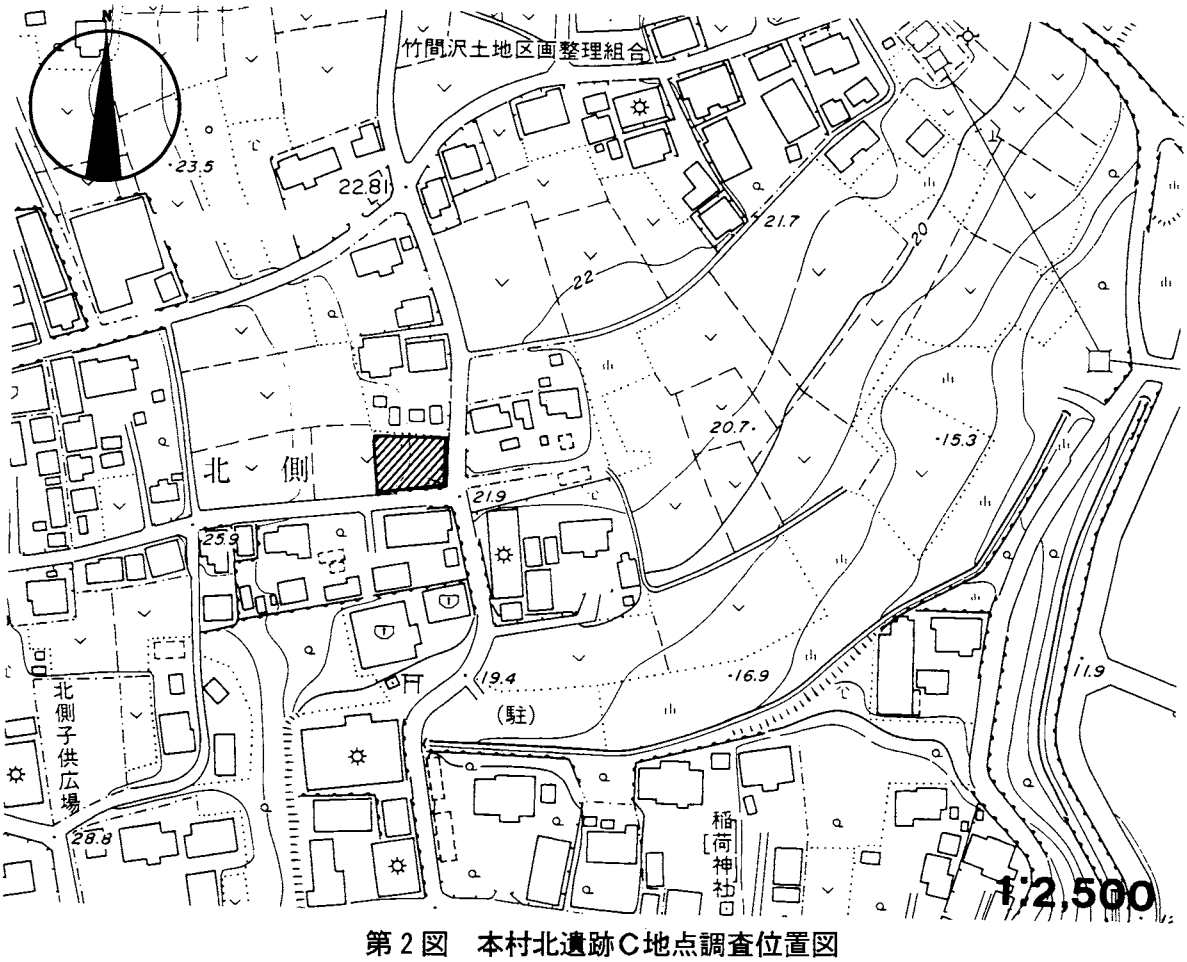
今回の調査は、平成8年10月7日から11月5日にかけて実施した。

2)遺跡の概要

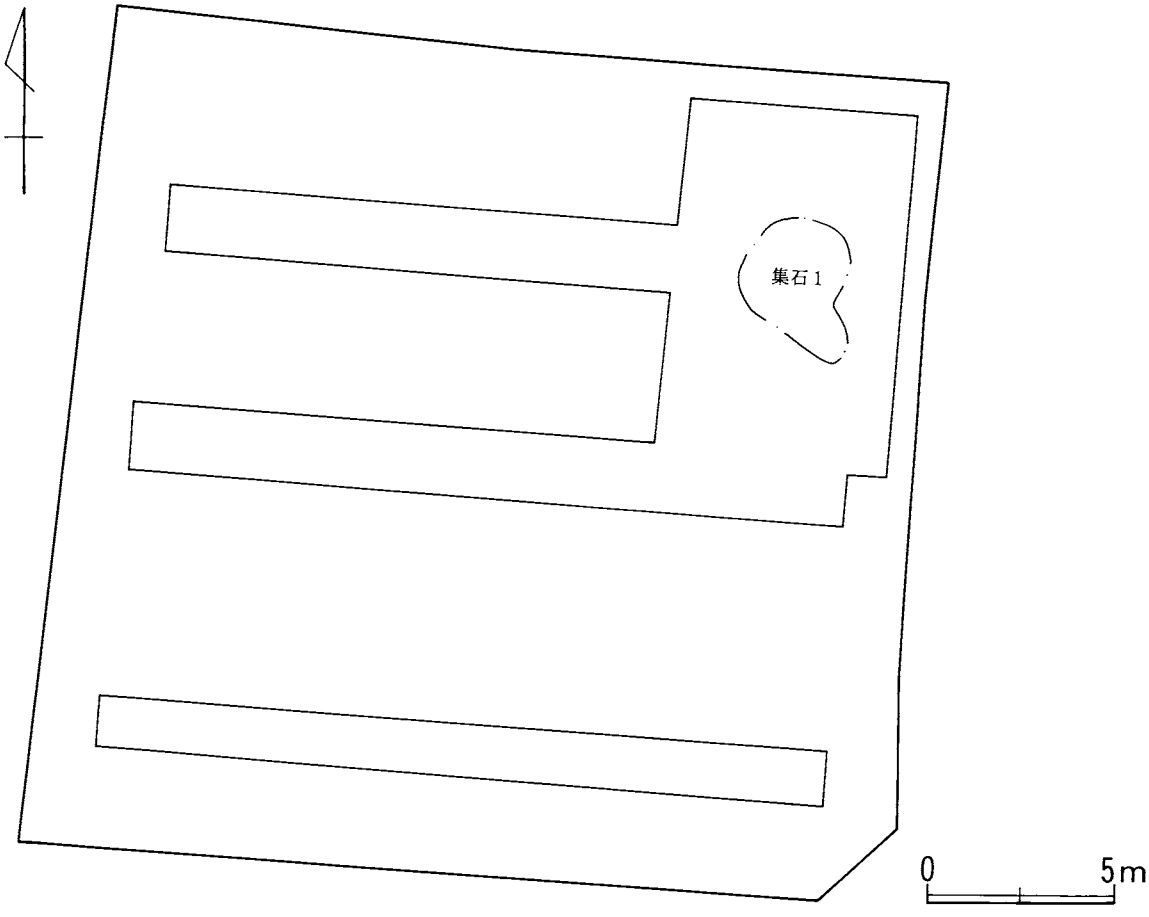
本遺跡は、武蔵野台地を開析する柳瀬川の左岸台地縁辺部に位置し、遺跡の南側を流れる通称「盆川」と呼ばれる小河川により形成された谷と、遺跡の北側に位置する富士見市境に入り込む小谷に画された、小さな舌状台地部分の南斜面に存在する。

本遺跡は、過去の発掘調査等により、縄文時代前期から平安時代（10世紀初頭頃）にかけての複合遺跡として捉えることができる。

今回の調査地は、周知の埋蔵文化財包蔵地（県遺跡番号32－033）の西端部付近に位置し、



第２図　本村北遺跡Ｃ地点調査位置図



第3図　本村北遺跡C地点全測図

柳瀬川に向かう河岸段丘の2段目西奥部に当たる。過去の確認調査等の結果を踏まえ、地形状況を勘案すると、遺跡の西限に位置するものと考えられる。

今回の調査により出土した遺構は、縄文時代中期と考えられる集石遺構1基のみであった。

3)　遺　構

1号集石

本遺構は、調査区の北東隅に位置する。表土より遺構確認面までの深さが60cmから70cmほど存在したために、遺構の依存状態は比較的良好であった。遺構の確認面は、ローム漸移層直上。

集石の拡がりは、東西5.3m×南北4.2mの楕円形を呈し、その中心部は1.5m×1,2mの範囲で礫および焼石が密集し、中心部からはずれるに従い散漫な礫の分布がみられる。

当集石遺構には、礫集中部においての明確な掘込みは確認されなかった。

集石の構成は、出土遺物層点数765点であり、主体は砂岩の焼石及び礫であった。その他にはチャートの焼石・礫が30余点含まれていた。礫及び焼石の構成は、97%が焼石、残り2.7%が礫、0.3%が土器であった。

礫及び焼石の重量は、300gを上限としており、大多数は100g以下の小礫で占められている。

出土した土器は、すべて2㎝大の小破片で、縄文時代中期の所産と思われる土器であったが、遺構の周辺部からの出土であり確実に遺構に伴うものかどうかは明確ではないが、この土器片の存在からすると当該集石の時期は縄文時代中期と推定されよう。

第4図　1号集石実測図

3．藤久保東遺跡Ｄ地点の調査

1）調査の経緯

藤久保東遺跡Ｄ地点は、埼玉県入間郡三芳町大字藤久保字東800番地1に位置する。調査は、個人住宅建設に先立つ埋蔵文化財記録保存調査として861㎡を実施した。

本遺跡は、過去3回にわたる発掘調査が行われており、今回の調査地も旧石器時代の遺物・遺構が検出される可能性が高く、開発者には事前調査の折りに、その旨を申し添えた。幸い開発者が地元の方であり、遺跡の存在・重要性を理解されていたので、調整に時間がかからず、今回の発掘調査は平成９年２月４日から平成９年２月28日にかけて実施された。

2）遺跡の概要

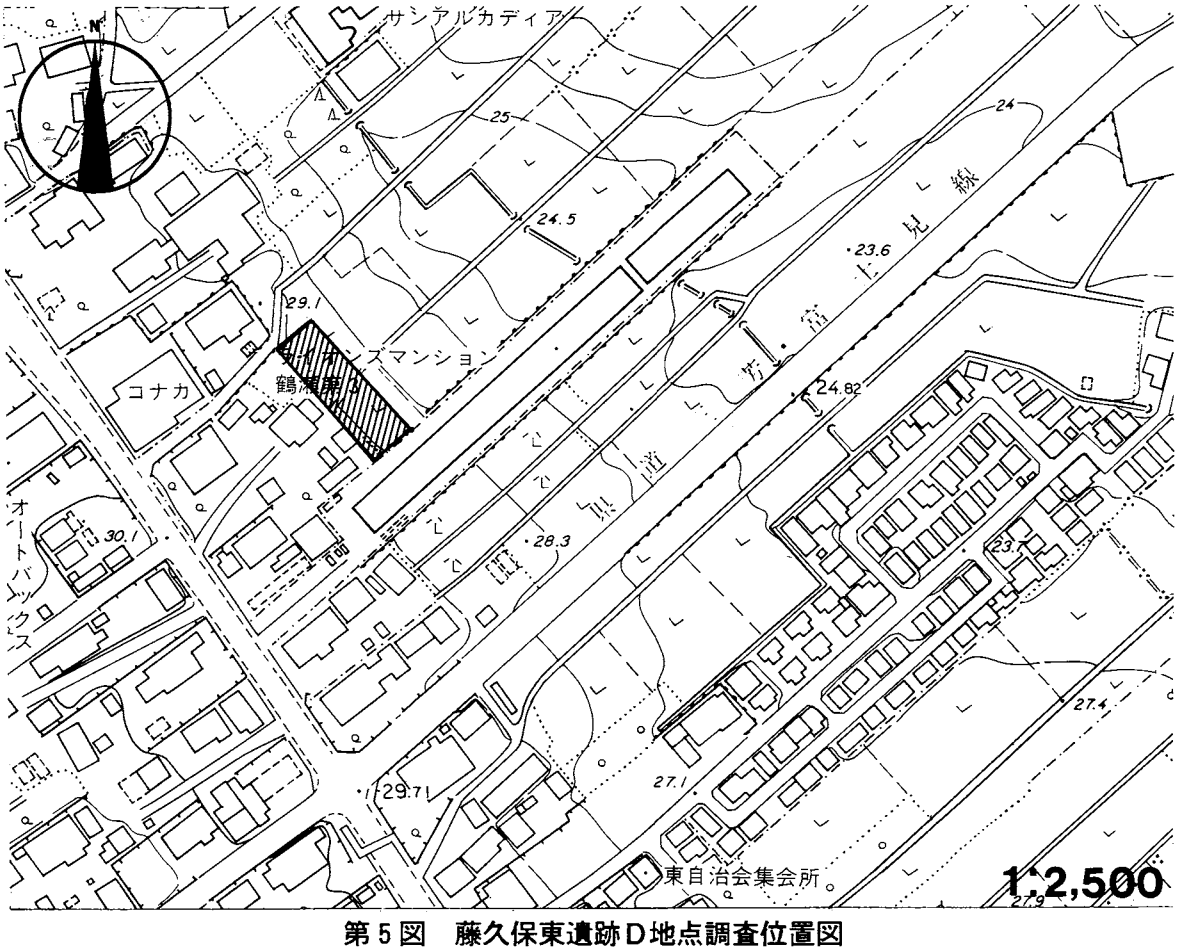
本遺跡は、武蔵野台地を開析する小河川「江川」の最上流部付近両岸一帯に広がる旧石器時代から縄文時代早期にかけての複合遺跡である。ことに、旧石器時代の遺構・遺物の出土量が多く、中でも、平成５年度から６年度にかけて実施されたＢ地点の調査においては、県内最古の局部磨製石斧が出土したことで知られている。

今回の調査地はＢ地点のすぐ南隣にあたり、旧石器時代（Ⅳ層下部）の礫群４ヶ所が検出された。

3）遺　構

礫群

遺物出土総点数は、341点である。その内、礫は327点であった。石材は、砂岩とチャートで占められているが、圧倒的に砂岩が多用されている。礫の98％が破砕礫であり、礫の99％が焼石であった。



第５図　藤久保東遺跡Ｄ地点調査位置図

礫群 1

調査地の中央やや北寄りに位置する。礫の分布は散漫であり、東西5.6m×南北1.9mの長楕円形状に拡がる。

遺物の総点数は94点であった。その内6点は黒曜石の剥片であり、残りは砂岩とチャートの焼石である。

礫群 2

調査地の中央やや北寄りに位置し、南側2mの位置に礫群1が存在する。東端部分は攪乱により失われていると思われるが、礫の分布は散漫であり、東西1.7m×南北2mの楕円形状に拡がる。

遺物の総点数は36点である。すべてが焼石で、石材は、砂岩とチャートである。

礫群 3

調査区のやや北寄りに位置し、南側1mの位置に礫群2が存在する。東西3.5m×南北3.4mのほぼ円形に拡がるが、中央部に礫が存在しないドーナツ状の分布が見られる。南西部分に遺物の集中が見られ、北東方向に向かうに従い遺物量が減少する。

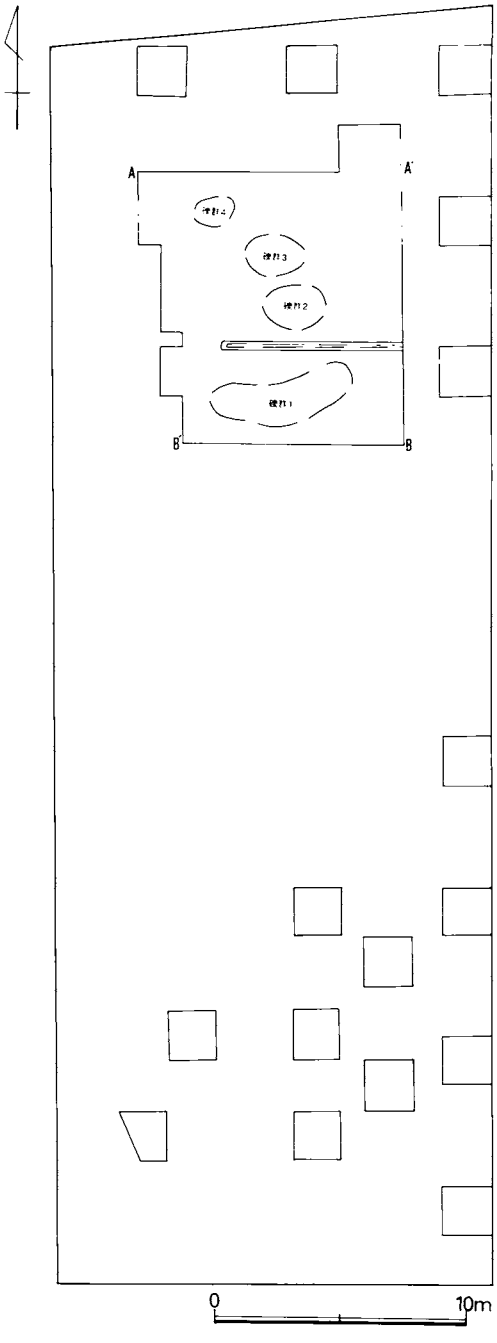
遺物の総点数は180点である。安山岩の剥片2点を除くと、残りはすべて砂岩及びチャートの焼石であった。

礫群 4

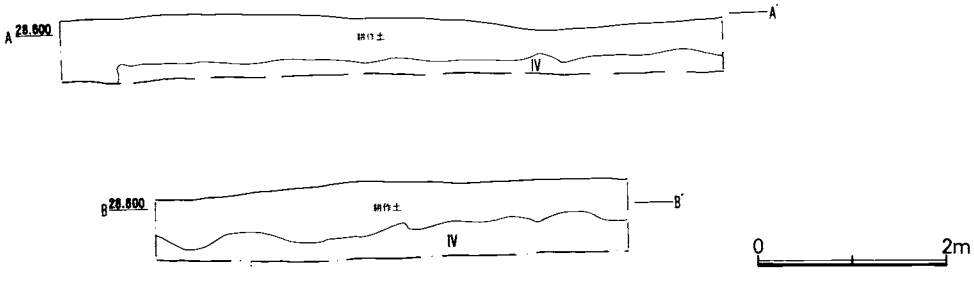
調査区の北寄りに位置し、南東2mの位置に礫群3が存在する。

東西2.5m×南北4.5mの長楕円形状に拡がるが、礫の分布は散漫である。

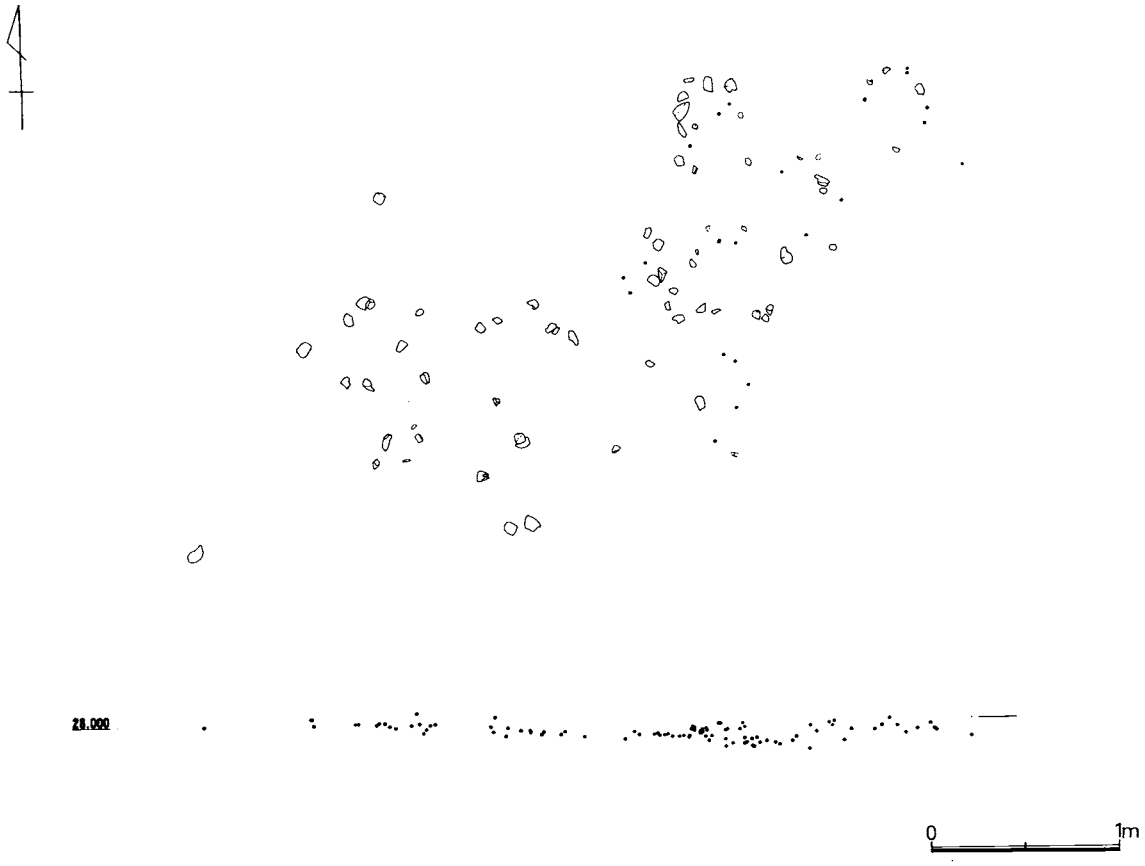
遺物の総点数は31点である。安山岩の剥片6点の出土があった。



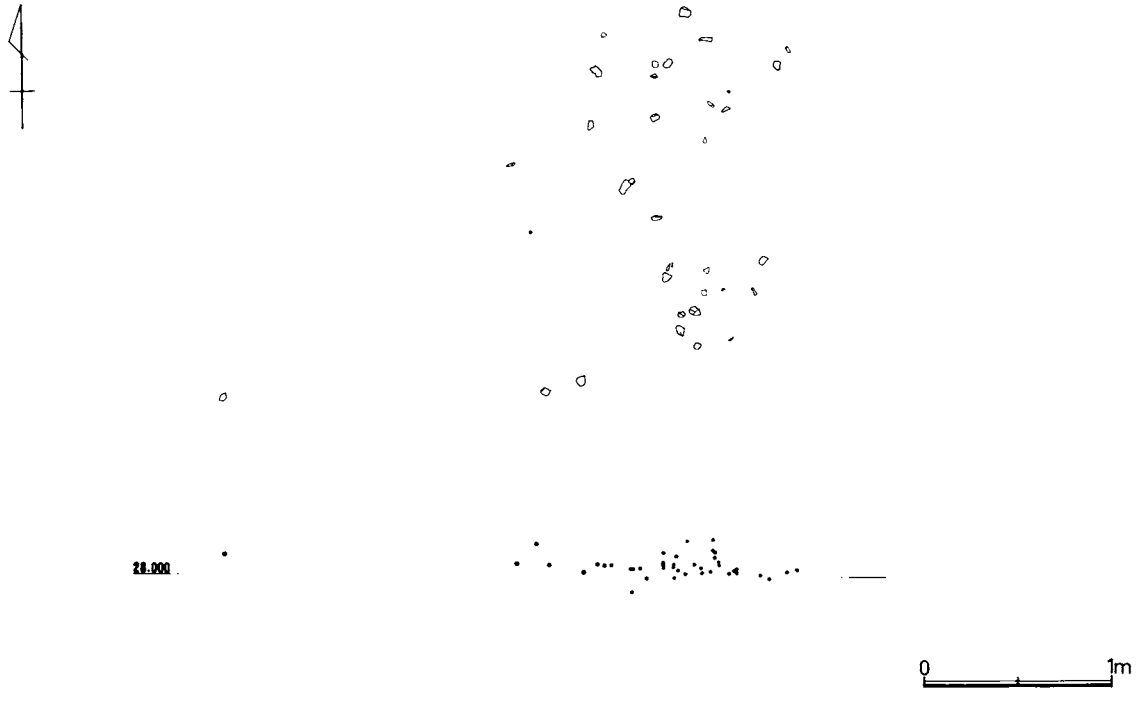
第6図　藤久保東遺跡D地点全測図



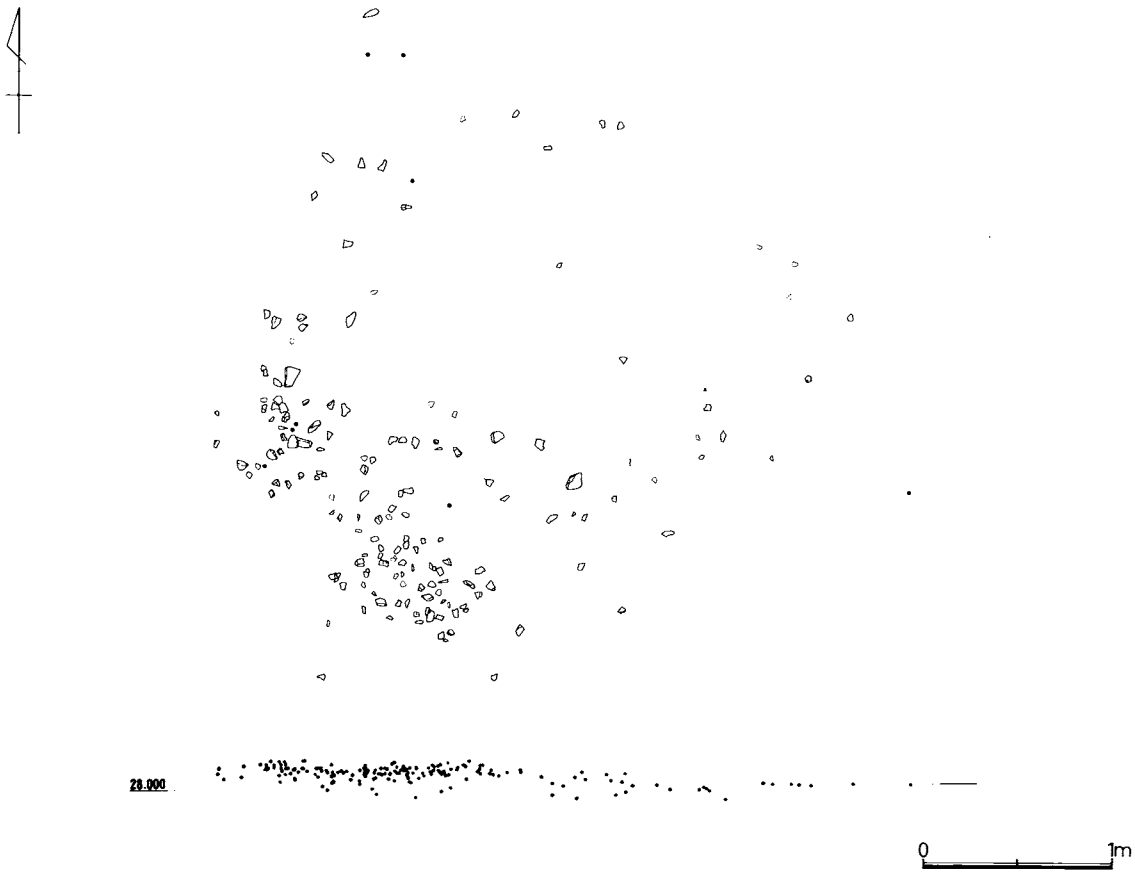
第7図　藤久保東遺跡D地点土層図



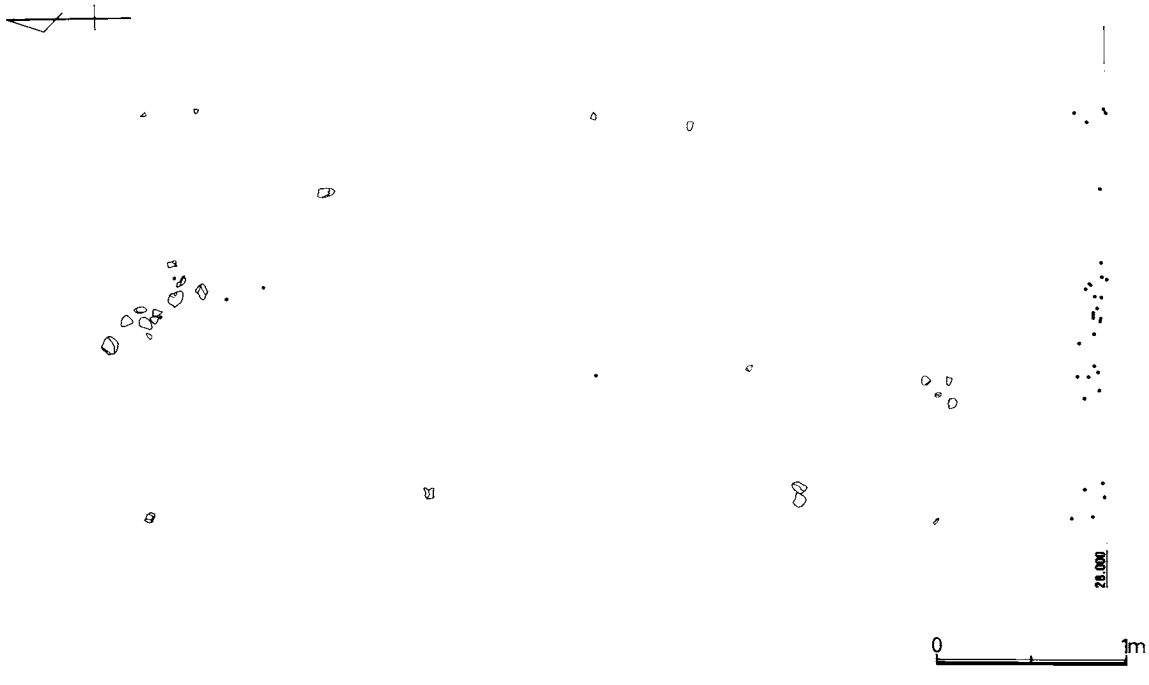
第8図　礫群1実測図



第9図　礫群2実測図



第10図　礫群 3 実測図



第11図　礫群 4 実測図

4．本村北遺跡Ｄ地点の調査

1）調査の経緯

本村北遺跡Ｄ地点は、埼玉県入間郡三芳町大字竹間沢字北側769番地1、770番地4に位置する。調査は、個人住宅建設に先立つ埋蔵文化財記録保存調査として400㎡を実施した。

本遺跡は、縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡として捉えられており、今回の調査でも、平安時代の住居跡２軒が検出された。

今回の調査は、平成9年5月13日から平成9年6月30日にかけて行われ、工事の都合により埋戻しは、平成9年12月9日に行った。

2）遺跡の概要

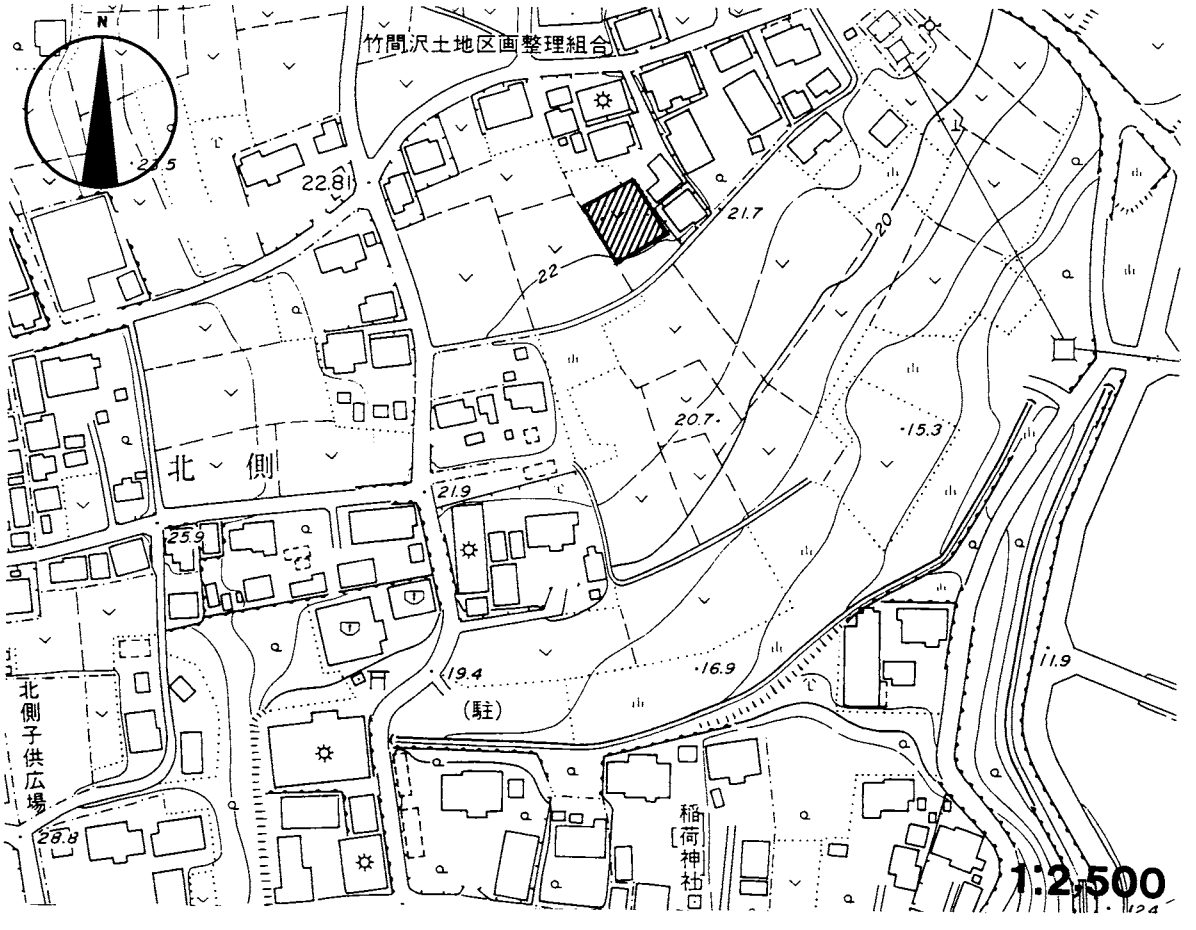
本遺跡は、武蔵野台地を開析する柳瀬川の左岸台地縁辺部に位置し、遺跡の南側を流れる小河川、通称「盆川」により形成された谷と、遺跡の北側に位置する富士見市境に入り込む小谷に画された、小さな舌状台地の南斜面に存在する。

今回の調査地は、南斜面の最奥部分、遺跡の北限に近い部分に当たる。

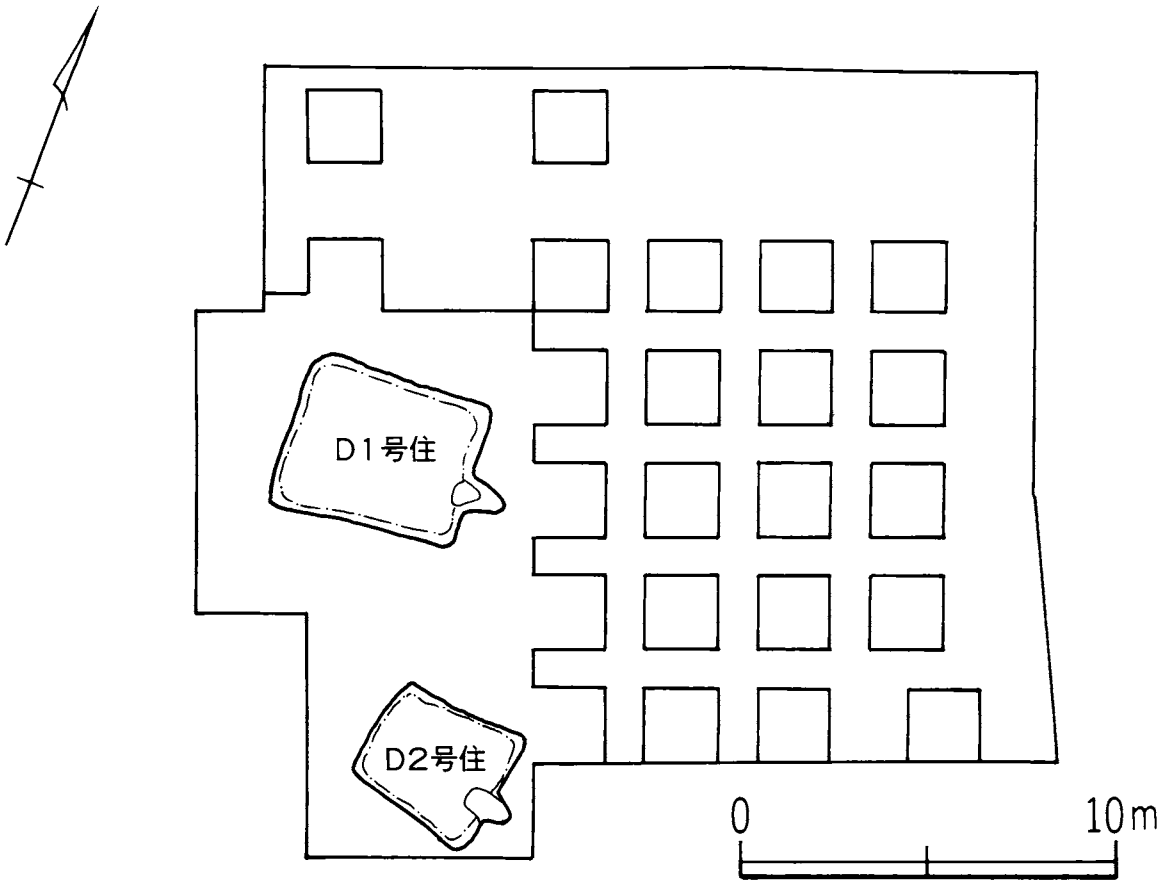
3）遺　構

Ｄ１号住居跡

本遺構は、調査区の南西隅に位置する。遺存状態は良好であった。確認面は、ローム漸移層上面で、掘込みは最深部で44㎝。規模は、長軸5ｍ×短軸4.2ｍであり、長軸方向はＮ－89°－Ｅ。形態は、東壁のやや南寄りに竈を構築し、西壁が東壁より若干長い台形状を呈する。



第12図　本村北遺跡Ｄ地点調査位置図



第13図　本村北遺跡D地点全測図

壁は、約80°の角度を持ってで立ち上がり、壁高は確認面より最大で44cmである。

床面は、周溝付近を除くほぼ全体にロームブロックを含有する貼床が施され、竈焚き口部分から西に向かって、住居の中央部一帯において硬化が認められた。柱穴は、確認されなかった。周溝は竈部分を除いて巡っていた。竈は、東壁のやや南寄りに構築されていたが、天井部は失われ、袖部分も破壊されたような状態で存在しなかった。規模は焚き口部から煙道先端まで1.55m、焚き口部の幅1mであった。

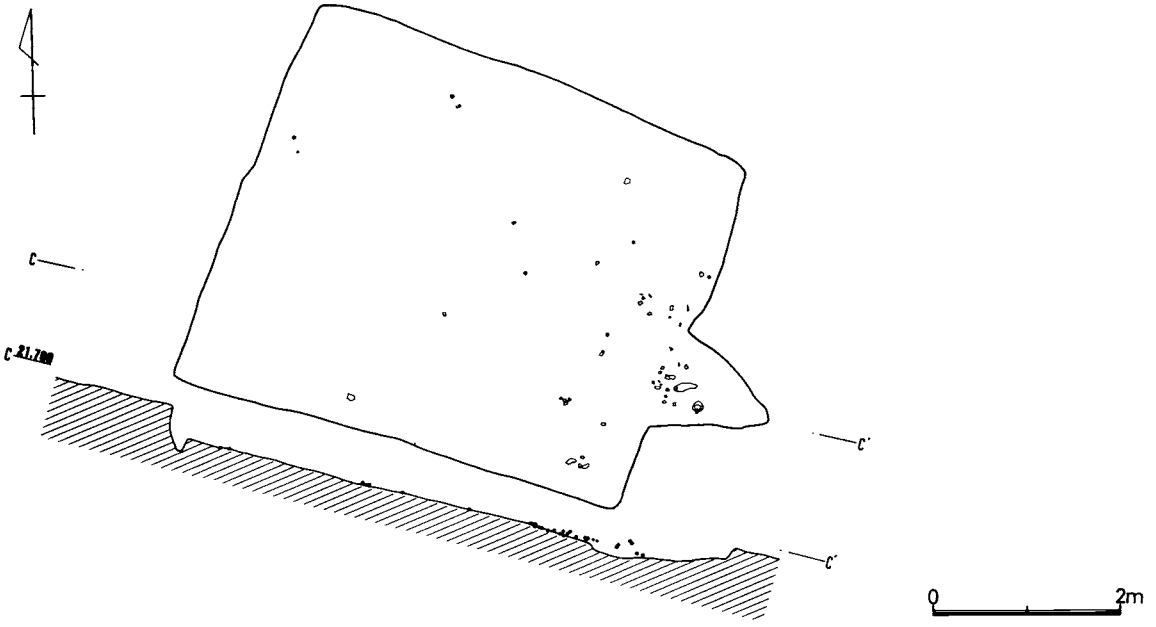
出土遺物は、須恵器坏2点である。時期は、8世紀末から9世紀初頭と推定される。

D2号住居跡

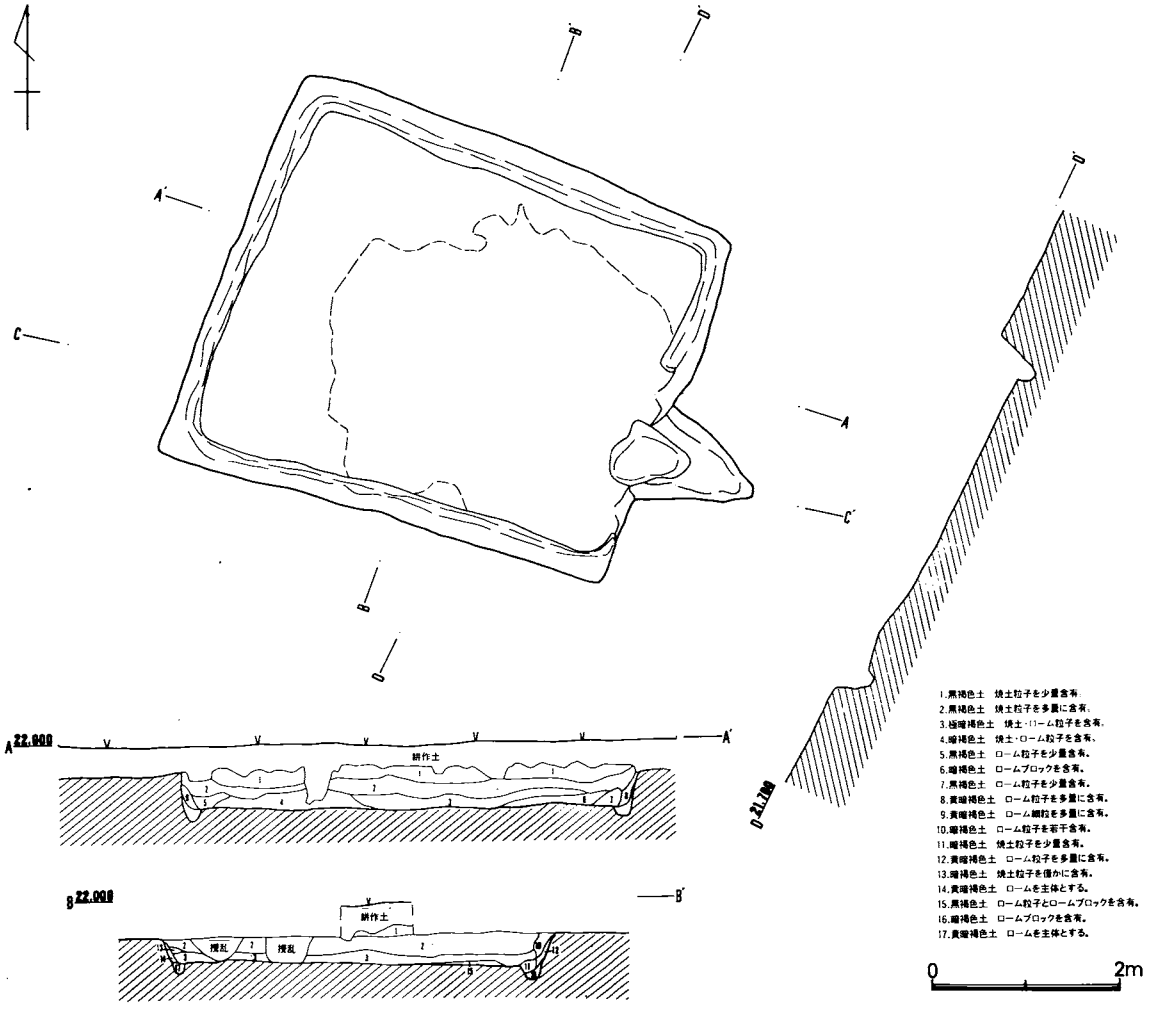
本遺構は、調査区の南端に位置する。約4m北にD1号住居跡が存在する。確認面からの掘込みはD1号住居跡よりも浅かったが、比較的良好な遺存状態であった。規模は、長軸3.8m×短軸3.2mであり、長軸方向はE－11°－S。形態は、東壁の南寄りに竈を構築し、東壁が西壁より若干長く、台形状を呈する。壁は、約65°の角度を持って立ち上がり、壁高は、確認面より最深部で24cmである。

床面は、周溝付近を除くほぼ全体にロームブロックを含有する貼床が施され、竈焚き口部分から西に向かって、住居の中央部付近まで硬化が認められた。柱穴は、確認されなかった。周溝は東壁部分を除いて巡っていた。竈は東壁のやや南寄りに構築されていたが、竈自体が破壊されたような状態であった。規模は、焚き口部から煙道先端まで1.2m、焚き口部の幅80cmであった。

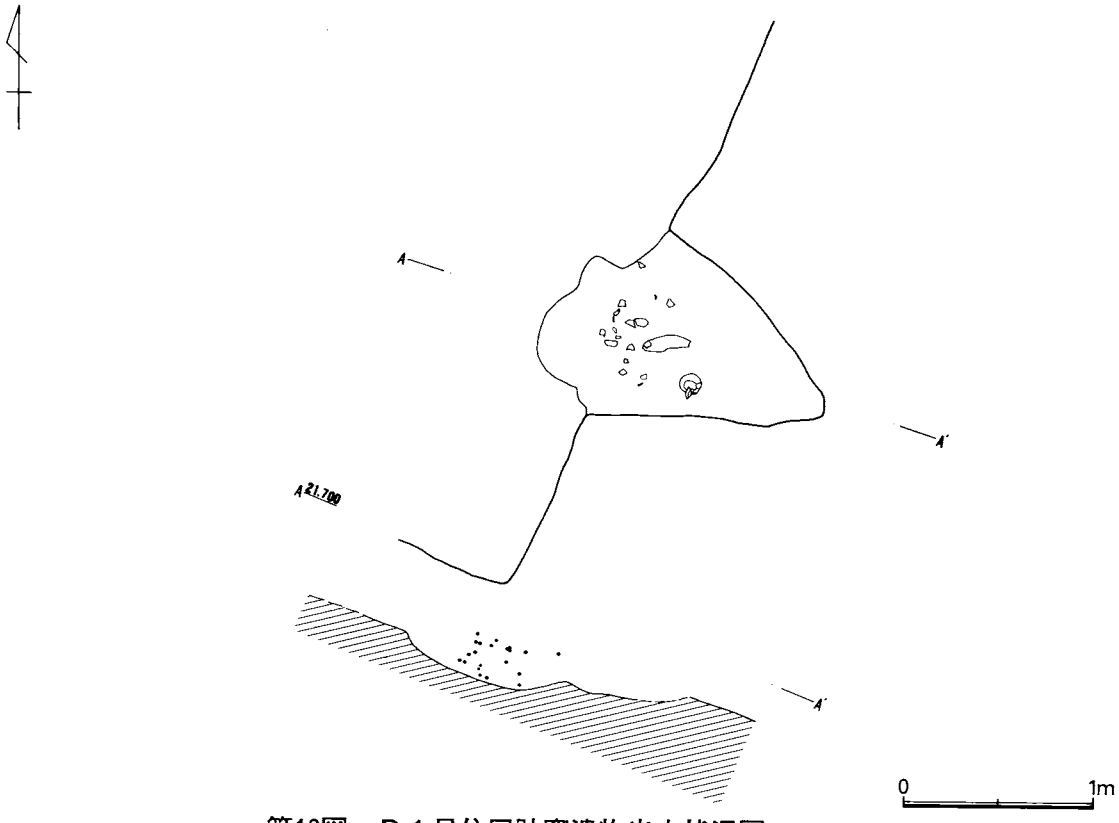
出土遺物は、須恵器坏3点、長頸壺1点、土師器甕3点である。時期は9世紀末から10世紀初頭と推定される。



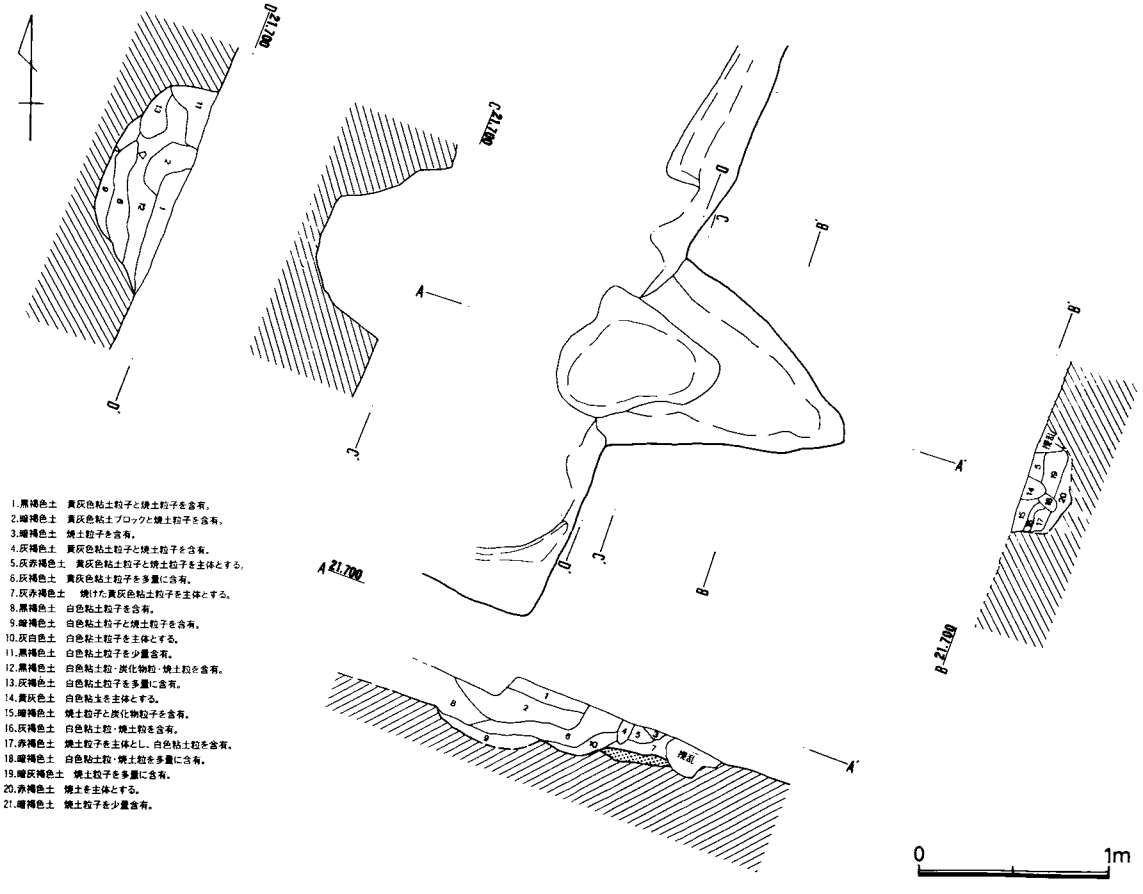
第14図　Ｄ１号住居跡遺物出土状況図



第15図　Ｄ１号住居跡実測図



第16図　Ｄ１号住居跡竈遺物出土状況図



第17図　Ｄ１号住居跡竈実測図

4) 遺　物

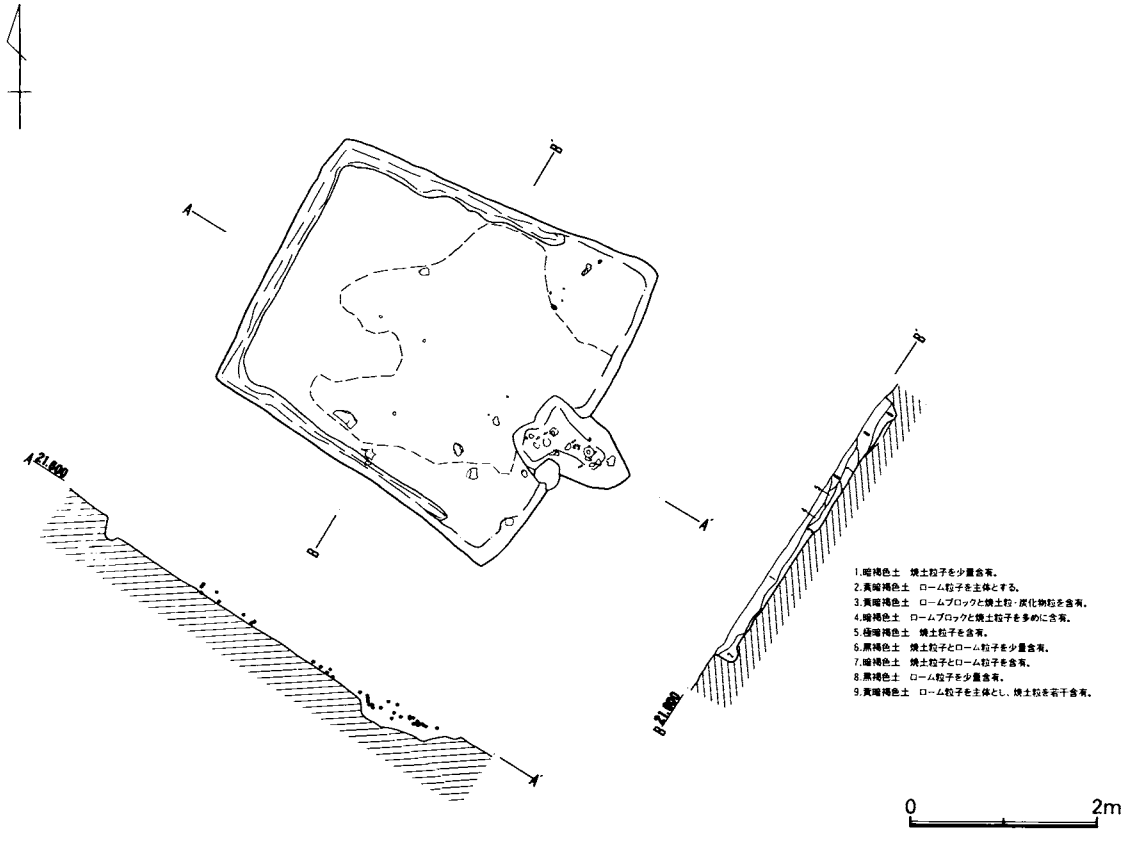
D 1 号住居跡出土遺物（1〜2）

1須恵器坏で、ほぼ完形品である。口径12.3cm、底径6.2cm、器高3.6cm。やや上げ底の底部より若干の丸みを持って立ち上がり、体部に弱い稜を持つ。口縁部は僅かに外反する。調整はロクロ。底部は左回転糸切りの後、回転ヘラ削り調整により糸切り痕は消されている。口縁部から体部上位にかけて自然釉が付着。胎土は緻密で、礫・粗砂・細砂・白色粒子を多く含む。焼成は良好。色調は灰白色。鳩山窯跡産と見られ、8世紀4／4〜9世紀1／4に位置づけられよう。

2須恵器坏。口縁部を一部欠損する。口径11.7cm、底径5.4cm、器高4.1cm。平底の底部よりやや角度を持って立ち上がり、体部に弱い稜を持つ。口縁は素直に立ち上がる。調整はロクロ。底部は左回転糸切り痕を残す。胎土は緻密で、礫・白色粒子を含む。焼成は良好。色調は青灰色。鳩山窯跡産と見られ、8世紀4／4〜9世紀1／4に位置づけられよう。

D 2 号住居跡出土遺物（3〜9）

3須恵器坏。口縁部を一部欠損する。口径12.2cm、底径4.8cm、器高4.8cm。平底の底部よりやや膨らみを持って立ち上がり、体部に弱い稜を持つ。口縁部はやや外反する。調整はロクロ。底部は左回転糸切り痕を残す。見込みにはロクロ調整時の窪みが存在する。胎土は緻密で礫を含む。焼成は良好。色調は暗青灰色。10世紀1／4に位置づけることができよう。



第18図　D 2 号住居跡実測図

4須恵器坏。口縁部の一部を欠損する。口径13.5cm、底径5.7cm、器高4.7cm。平底よりやや丸みを持って立ち上がり、体部に弱い稜を持つ。全体的に雑な作りである。胎土は礫を多量に含む。焼成は良好。色調は暗青灰色。東金子窯跡産と見られ、時期は9世紀4／4。

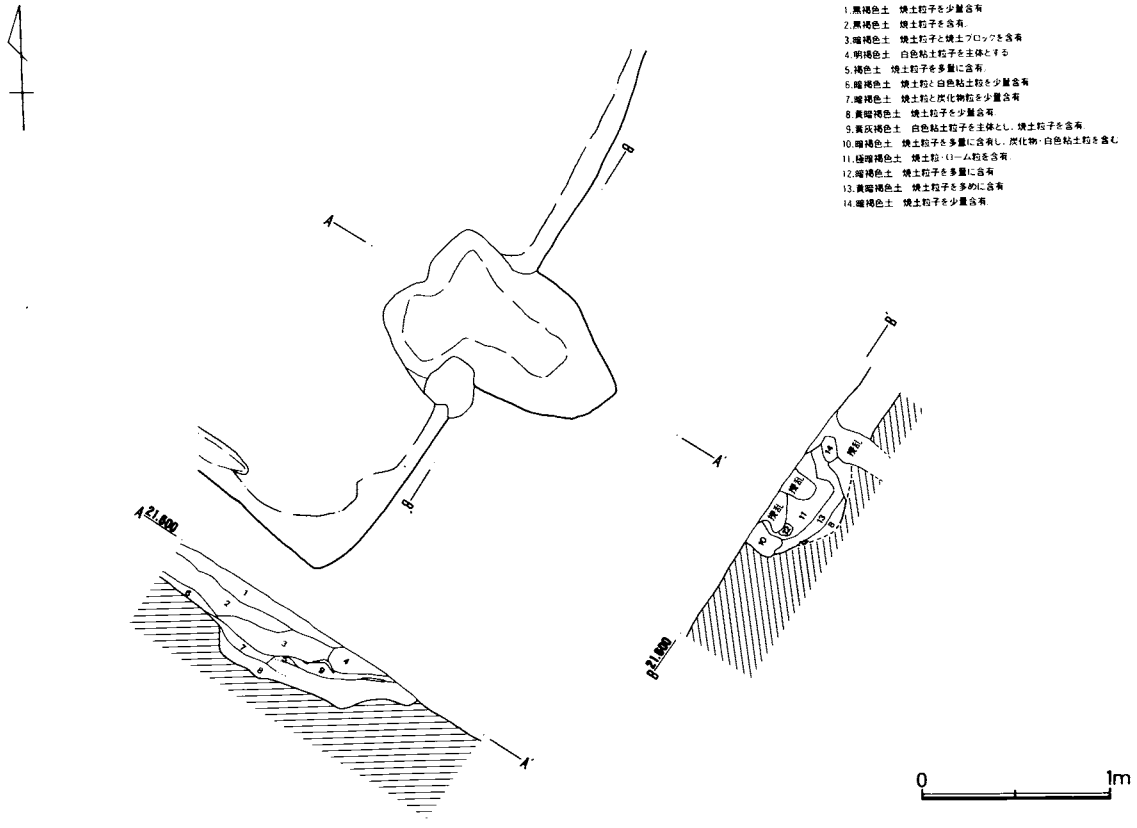
5須恵器坏。口径12.7cm、底径5.4cm、器高4.0cm。やや上げ底の底部から丸みを帯びて立ち上がる。調整はロクロ。底部は左回転糸切り痕を残す。焼成は酸化炎状態で、色調は明赤褐色。10世紀1／4に位置づけられよう。

6土師器甕。口縁部から胴部の一部を残す。推定口径20cm。頸部はほぼ垂直に立ち上がる。外面は口縁部横撫で。胴部は横位のヘラ削り。内面はヘラ撫で。胎土は緻密で粗砂・細砂を含む。焼成は良好。色調は暗赤褐色。

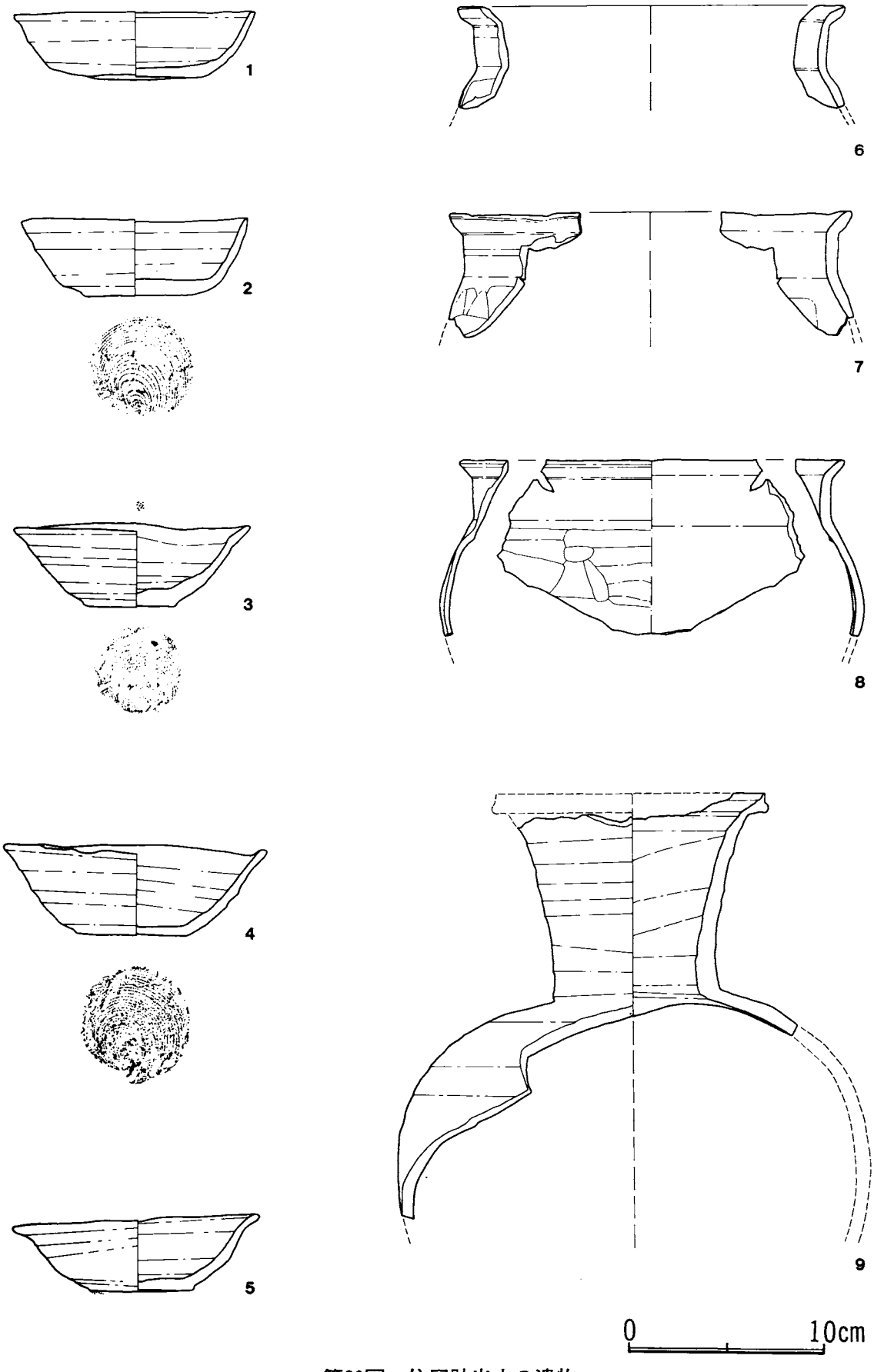
7土師器甕。口縁部から胴部の一部を残す。推定口径20.7cm。頸部はほぼ垂直に立ち上がる。外面は口縁部横撫で。胴部は横位のヘラ削り。内面はヘラ撫で。胎土は緻密で細砂を含む。焼成は良好。色調は暗赤褐色。

8土師器甕。口縁部から胴部の一部を残す。推定口径19.9cm、推定最大径21.8cm。頸部はほぼ垂直に立ち上がり、口縁部はやや外反する。胴部上位に最大径を持つ。外面は口縁部横撫で。胴部は横位のヘラ削り。内面はヘラ撫で。胎土は緻密で細砂を含む。焼成は良好。色調は赤褐色。

9須恵器長頸壺。口縁部から胴部中位にかけて約1／4を残す。推定口径13.8cm。推定最大径24.4cm。胴部中位に最大径を持つと思われ、胴部はやや丸みをち、頸部は外向しながら立ち上がる。口縁部は大きく外反し、口唇部は屈曲する。調整はロクロ。頸部から胴部上位に自然釉付着が目立つ。胎土は緻密で礫を含む。焼成は良好。色調は明青灰色。



第19図　D 2 号住居跡竈実測図



第20図　住居跡出土の遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	さいたまけんいるまぐんみよしまちちょうないいせきはっくつちょうさほうこくしょ		
書　　名	埼玉県入間郡三芳町町内遺跡発掘調査報告書	巻次	Ⅳ
副書名			
巻　　名			
シリーズ名			
シリーズ番号			
編著者名	柳井章宏・小林由孝		
編集機関	入間郡三芳町教育委員会		
所在地	〒354-8555　埼玉県入間郡三芳町大字藤久保1,100番地1		
発行年月日	1998年（平成10年）3月31日		

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	東経 北緯	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
ほんむらきたいせき 本村北遺跡C地点	みよしまちちくまざわ 三芳町竹間沢700-6	113247	32-003	139° 33′ 06″ 35° 49′ 21″	19961007 ～ 19961105	495㎡	個人住宅建設
ふじくぼひがしいせき 藤久保東遺跡D地点	みよしまちふじくぼ 三芳町藤久保800-1	113247	32-012	139° 31′ 57″ 35° 49′ 59″	19970204 ～ 19970228	861.32㎡	個人住宅建設
ほんむらきたいせき 本村北遺跡D地点	みよしまちちくまざわ 三芳町竹間沢770-4	113247	32-003	139° 33′ 10″ 35° 49′ 23″	19970513 ～ 19970630	400㎡	個人住宅建設

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本村北遺跡C地点	集落跡	縄文時代	集石　1基	焼石	
藤久保東遺跡D地点	集落跡	旧石器時代	礫群　4基	焼石　剥片	
本村北遺跡D地点	集落跡	平安時代	住居跡　2軒	須恵器　土師器	

写真図版 1

本村北遺跡Ｃ地点

調査地全景

調査風景

１号集石（北→）

１号集石（東→）

１号集石接写

調査終了

写真図版 2

藤久保東遺跡Ｄ地点

調査地全景

調査風景

礫群 1

礫群 2．3．4（東→）

礫群 2．3．4（西→）

調査終了

写真図版 3

本村北遺跡Ｄ地点

Ｄ１号住居跡遺物出土状況

Ｄ２号住居跡遺物出土状況

Ｄ１号住居跡遺物接写

Ｄ２号住居跡遺物接写

Ｄ１号住居跡完掘

Ｄ２号住居跡完掘

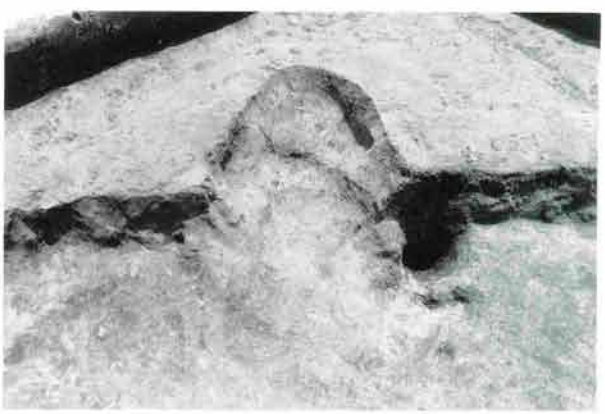
写真図版 4

本村北遺跡Ｄ地点

Ｄ１号住居跡竈遺物出土状況

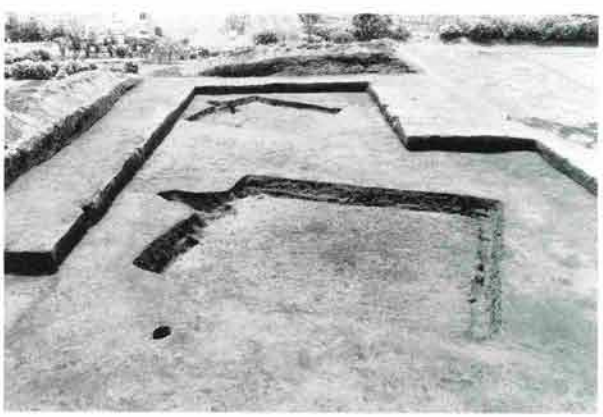
Ｄ２号住居跡竈遺物出土状況

Ｄ１号住居跡竈完掘



Ｄ２号住居跡竈完掘

調査風景



調査終了

1

2

3

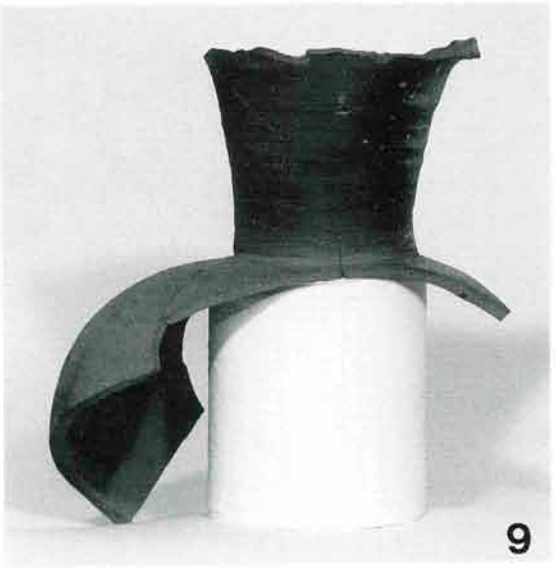
4

5

6

7

8


9

埼玉県入間郡三芳町

町内遺跡発掘調査報告書Ⅳ

発行日　平成10年3月31日
編集機関　三芳町教育委員会
入間郡三芳町藤久保1,100－1
TEL. 0492-58-0019
発　行　三芳町教育委員会
印　刷　梅田印刷株式会社